主体的・協働的な学びにつなげる幼稚部の遊びと保育園との交流

― 幼児自らが“もの”や“人”にかかわって遊ぶ姿を求めて―

小泉浩一　田口悦津子　蓮香美園　山内裕史
大伴潔　橋本創一　林安紀子（東京学芸大学）
近江真弓　吉野豊子（東久留米市立しんかわ保育園）

Ⅰ　はじめに

幼稚園教育要領（平成30年２月）、保育所保育指針（平成30年２月）、幼保連携型こども園教育・保育要領（平成30年３月）では、時代に求められる資質・能力を子ども達に育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指している。そこでは「主体的・対話的で深い学び」に向けた指導とその改善を前提としている。本校では、「主体的・対話的で深い学び」に向けた指導を「主体的・協働的な学びを育む支援」として実践研究に取り組み、今年度で４年次となる最終年を迎えた。幼稚部では「主体的・協働的な学びを育む支援」の場を幼稚部の遊びと保育園との交流保育におき、個別の交流計画の活用や双方の遊びに連続性を持たせる実践に取り組んできた。

本研究では、研究主題「主体的・協働的な学びを育む支援」を幼児期の発達の特性を踏まえて「幼児自らが“もの”や“人”にかかわって遊ぶ姿を求める支援」と解釈する。そして、幼児期の支援の在り方と一人ひとりの支援を検討した上で、幼稚部の遊びや保育園との交流保育の遊びに連続性をもたせる実践を行い、幼児の学びや育ちからその支援を検証することを目的とする。

※「交流保育」を本校幼稚部の教育課程では「交流」という名称を使い、「交流及び共同学習」と同義と解釈する。

Ⅱ　方法

１．研究の方法

幼稚部の在籍幼児を対象に「幼児自らが“もの”や“人”にかかわって遊ぶ姿を求める支援」の在り方と幼児一人ひとりの遊びの支援を検討する。その後、幼稚部の遊びと交流保育の遊びに連続性を持たせる実践を行い、対象幼児の育ちや学びから支援の効果を検証する。

２．対　象

４歳児２名、５歳児２名である。自閉症スペクトラム障害（３名）、ダウン症（１名）で、発達年齢は１歳８ヶ月から３歳２ヶ月である。運動面では、片手支持で階段を上ることができる子供や、ジャングルジムの頂上まで簡単に登れる子供がいる。認知面では、簡単な形の弁別や円の模写ができる。言語面では指さしで要求表出ができる子供から、音声言語で名称の表出、二語文表出がある子供がおり、音声言語の理解については、日常的な名称を理解し、中には日常的な単文を理解する子供がいる。行動面では、はじめての場所や場面には不安定になる、聴覚過敏、泣き声に敏感、注意が転動しやすい、一所にとどまらずよく動く、といった特徴を個々に持ち合わせている。遊びは運動遊び、ままごと、人形遊びなどを好み、一人遊び、平行遊びの様相が見られる。

３．幼稚部の遊び

幼稚部の週時表（表１）で示すと共に、それぞれの遊びについて記述する。

（１）自由遊び

幼児が自分の要求に基づき「自由に」遊ぶ時間を設定している。自由遊びを通していろいろな対象に興味や関心を向けていくようになること、自分からすすんでいろいろな遊びを楽しめるようになること、友達との交わりや遊びの方法を自分で見つけていくようになる、などをねらいとしている。

（２）課題遊び

課題遊びは、幼児が興味をもって取り組めるように、造形、運動、音楽・リズム、象徴遊びの領域と、自然や季節的行事などを関連させた内容の遊びを扱う。

（３）朝の集まり

毎朝、幼児全員が集まり、挨拶、出席調べ、手遊び歌を中心に教員や友だちとのコミュニケーションを育てることをねらいとした「朝の集まり」を設定している。

表１　幼稚部の週時表

時刻＼曜日	月	火	水	木	金
9:10～ 9:30		個別の時間（４歳）			個別の時間（４歳）
	登校			登校	
9:30～10:00	朝の支度・着替え			朝の支度・着替え	
	自由遊び			自由遊び	
10:00～10:30	朝の集まり			朝の集まり	
10:40～11:40	課題遊び（自由遊び）			課題遊び（自由遊び）	
11:30～12:30	配膳の手伝い 給食		降園	配膳の手伝い 給食	
～13:10	昼休み（自由遊び）			昼休み（自由遊び）	
13:10～13:30	帰りの支度・下校			帰りの支度・下校	
	個別の時間（５歳）			個別の時間（５歳）	
４歳児下校	13:30		12:15	13:30	
５歳児下校（個別の時間がある場合）	13:30（14:00）		12:15	13:30（14:00）	

（４）個別の時間

個別教育計画や発達アセスメントの結果を基に個別の学習形態に適した運動、認知、言語などの領域の内容を扱う。

（５）交流

保育園児たちと活動や遊びをすることによって生活経験を広げ、社会性をはぐくむことをねらいとしている。

４．交流保育の概要

（１）交流保育

本校幼稚部と保育園との交流保育は、1978 年より東久留米市立の保育園と行っており、本年度の交流先である東久留米市立しんかわ保育園との交流保育は２年目となる。交流保育は毎週水曜日（９時 15 分～12 時 15 分）に行われ、幼児は交流保育先の保育園に登園する。（表１の週時表では「交流」の授業名で表記している。）

保育園には０歳～５歳の幼児（以降園児と表記）が 110 名在籍しており、０歳～２歳児が年齢別のグループに、３歳～５歳児が縦割りのグループに分かれて保育が行われている。本校幼稚部の幼児（以降幼児と記述する）は３～５歳児の３グループの中の２グループ、２教室に２名ずつ参加して保育を受けている。幼児は保育園へ９時 15 分に登園し、「自由遊び」、リズム遊びを中心とした「朝の体操」、「集会」、「課題遊び（設定遊びと同義）」を行い、給食後の 12 時 15 分に降園する。活動によっては０歳～２歳の園児とともに活動している。

平成 30 年度の交流保育では、幼稚部の幼児４名（４歳児２名、５歳児２名）が参加し、平成 30 年５月～平成 31 年３月の期間で 31 回の交流保育を計画した。（表２）

（２）合同会議

教員と保育士で行う合同会議（ケース会議を含む）を定期的に実施し、幼稚部と保育園の教育や保育の情報の共有を行い、交流保育の内容等についての検討を行った。幼稚部と保育園の

遊びや学びの場に連続性を持たせるには、合同会議等での情報交換は重要となる。そして、合同会議だけではなく、担当者間の連絡や事前の教育や保育の見学も行うことにした。

表２　平成 30 年度の交流保育の主な活動

授業目標： ・園児と活動をともにすることにより、生活経験を広げる。 ・大勢の友だちとの交わりの中で社会性をはぐくむ。	指導期間：5月～3月（9ヶ月間） 指導対象：5名（４歳児２名、５歳児３名） 総授業数：31回

個別教育計画上の指導形態
4歳：大勢の園児の中に一緒にいることができる。園児の活動に教員や保育士と一緒に参加しようとする。発達年齢に合わせ、参加する活動を決める。
5歳：園児と同じ場で同じように遊ぶことができる。保育士や教員が仲介して、園児と関わりながら遊ぶ楽しさを味わう。前年度と同じ園児と一緒に生活する。

基本的な日課			登園-朝の準備-自由遊び-朝の体操-集会-課題遊び-給食準備-給食-帰り準備-降園	
回数	月日		活動名	主な活動内容
1	5月	22日	いも苗植え	園児5歳児と一緒に本校農場にて、サツマイモの苗植え
2	6月	13日	顔合わせ会	園児と本校幼児の対面式、朝の体操、自由遊び（砂遊び、三輪車、滑り台）
3		20日	スタンピング	朝の体操、スタンプ遊び、自由遊び
4		27日	夏祭りごっこ	朝の体操、夏祭りごっこ、自由遊び
5	7月	４日	夏祭りごっこ	朝の体操、夏祭りごっこ（ヨーヨー、水鉄砲、魚釣り）、自由遊び、弁当
6		11日	水・プール遊び	朝の体操、水・プール遊び
7		19日	すいか割り	朝の体操、すいか割り、自由遊び
8	9月	5日	水・プール遊び	朝の体操、お久しぶりの会、水・プール遊び、自由遊び
9		19日	歯科指導	朝の体操、歯科指導（外部講師）、自由遊び
10		26日	大吉さんと遊ぼう	朝の体操、大吉さんと遊ぼう（外部講師）、自由遊び
11	10月	3日	運動会ごっこ	体操 運動会ごっこ遊び（体操、ダンス、４歳児競技、玉入れ）、自由遊び
12		13日	交流運動会	体操、かけっこ、年齢別の運動会種目、玉入れ、ダンス
13		17日	運動会ごっこ	体操、かけっこ、年齢別の運動会種目、玉入れ、ダンス
14		24日	運動会ごっこ	体操、かけっこ、年齢別の運動会種目、玉入れ、ダンス
15		31日	交流散歩	幼稚部まで並んでの歩行、幼稚部の園庭で秋の探索と遊び
16	11月	７日	交流散歩	近隣の公園まで並んでの歩行、公園で秋の探索と遊び
17		8日	交流芋掘り	本校農場にて、芋ほり
18		21日	さつま芋ホイル焼き	本校農場にて、芋ほり、焼き芋の試食
19		28日	お芋スタンプ	朝の体操、園庭で芋スタンプ遊び、自由遊び
20	12月	12日	お楽しみ会　準備	朝の体操、年齢別造形遊び（お店の商品作り、他）、自由遊び
21		19日	お楽しみ会　準備	朝の体操、お店やさんごっこ、自由遊び
22	1月	9日	もちつき大会	朝の体操 園庭での餅つき
23		16日		※インフルエンザ流行のため交流中止
24		23日		↓
25		30日		↓
26	2月	6日		↓
27		13日	びわ劇場	5歳児の劇の観賞
28		20日	ひかり劇場	本校幼児による劇の発表（19日実施済み学習発表会の演目）
29		27日	卒園式ごっこ	自由遊び、卒園式の体験
30	3月	13日	おめでとうの会	卒園する園児を祝う会と会食パーティー
31		16日	卒園式	5歳児が保護者とともに保育園の卒園式第1部に参加

※年間に実施した活動を記述した。

（３）通信の発行

幼稚部と保育園の保護者の理解と啓発を目的に、交流保育の様子を家庭に知らせる通信を毎回、発行した。

（４）活動の共有

子供たちが主体的に活動できるように、幼稚部と保育園が取り組んでいる活動を共有するように努めた。

※しんかわ保育園の保育についての詳細については、【資料１】を参照されたい。

Ⅲ　結果

1．「幼児自らが“もの”や“人”にかかわって遊ぶ姿を求める支援」の在り方

授業を実践しながら「幼児自らが“もの”や“人”にかかわって遊ぶ姿を求める支援」の在り方を検討し、幼稚部の全体の遊びや授業に行き渡るように努めた。

（1）　幼稚部版「主体的・協働的な学びを育む授業」のポイント

支援の在り方として、全校の研究活動で検討してきた“主体的・協働的な学びを育む授業のポイント”を幼児期の特性を踏まえて、実践と通して検討した。幼稚部では遊びを通しての指導という捉え方から、小学部以降の高学年の学部と同様に、「授業」「学習活動」の言葉を使用して記述する。「授業」は幼稚部の週時表で記述した各遊び、「学習活動」は各遊びでの活動と解釈した。詳細は別冊の事例集を参照されたい。

表３　幼稚部版「主体的・協働的な学びを育む授業」のポイント

◎授業作りの前提となるポイント
(1) 子どもが安心できる身近な大人とのかかわりを構築する。
(2) 子どもの生活リズムを捉える。
(3) 子どもの発達や障害の実態を把握し、課題や支援を設定する。
(4) 子どもの興味・関心を引き出すための工夫をする。
(5) 子どもが自発的に活動するための環境を構成する。
(6) お互いを意識し合える環境を整える。
◎学習活動に関するポイント
(7) やってみたいこと（もの）を選んだり、要求したりする機会を設定する。
(8) 小集団で繰り返し活動する場を設ける。
(9) 学習活動と子どもの生活に連続性を持たせる。
◎教員の支援に関するポイント
(10) 子どもの経験が無理なく広がるようにする。
(11) 子どもの「もの」へのかかわり、「人」へのかかわりの変化を的確に捉える。

（2）幼稚部版「主体的・協働的な学びを育む授業」のポイントの活用

ここでは課題遊び「運動遊び」を例に、「主体的・協働的な学びを育む授業」のポイントについて記述する。運動遊びでは、表３にある（3）と(5)、(9) の活用について記述する。

1）実態把握と課題や支援の設定（表３（3））

運動遊びでは運動制限のある幼児もおり実態把握は欠かせない。表４は実態把握の一部で幼児の運動領域を評定したものである。対象幼児の生活年齢は４、５、６歳であるが、運動課題を評定すると１歳、２歳、３歳の運動課題が達成されていないことがわかる。運動遊びでは達成されていない１歳から３歳児の運動課題も含めて設定し、支援を行った。

2）自発的に活動できるための環境の構成（表３　(5)）

子どもが興味・関心を持つ物（事）を導入したり、教員が楽しく活動する姿を見せたり、子どもが一人でできる環境を準備することが必要となる。図１は運動遊びの「運動会ごっこ」の様子である。

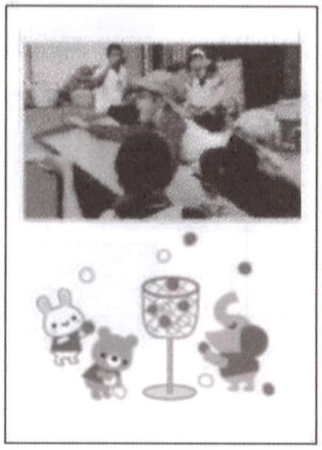
３）遊びや学びの連続性（表３（9））

運動遊び後の自由遊びの時間に運動遊びができるように環境を残す（「運動遊び」と「自由

表４　運領域の実態把握（評定項目は「乳幼児発達スケール（発達科学研究教育センター）」

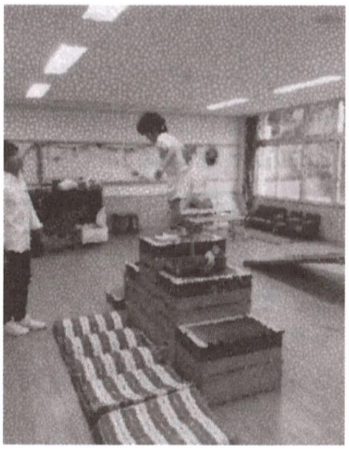
年齢		項目	A	B	C	D	E
1歳	12	一人で数秒間立っていられる。	○	○	○	○	○
	13	リズムをとって体を動かす。	○	○	○	○	○
	14	片手を持ってあげれば階段を登れる。	○	○	○	○	○
	15	200メートル位一人で歩ける。	○	○	○	○	○
	16	三輪車など押し歩く。	○	○	○	○	○
	17	**ボールをオーバーハンドで投げられる。**	○		○	○	○
	18	**何もつかまらず後ろ向きに歩ける。**	○	○		○	○
	19	つま先立ちができる。	○	○	○	○	○
	20	鉄棒にぶら下がれる。	○	○	○	○	○
2歳	21	階段を片足で交互に登る。	○	○	○	○	○
	22	**片足でケンケンをしようとする。**	○	○			
	23	**三輪車や補助付きの自転車がこげる。**	○			○	
	24	**ブランコで一人で立っていられる。**		○			
3歳	25	転がっているボールを捕まえることができる。	○	○	○	○	○
	26	**片足ケンケンができる。**	○				
	27	**20メートルぐらいスムーズに全力疾走ができる。**	○	○		○	
	28	**公園にあるジャングルジムの頂上まで登れる。**	○	○			
	29	**つま先立ちで後ろに歩くことができる。**		○		○	
	30	**ブランコで立ち乗りができる。**					
4歳	31	スキップができる。				○	
5歳	32	子ども達だけでリレー遊びができる。				○	
	33	ボールを３回くらいドリブルができる。					
	34	ジャングルジムの中で地面に足を着かずに追いかけっこができる。					
	35	ブランコの立ち乗りで大きくこぐことができる。					
	36	一人でなわとびができる。					
6歳	37	補助輪なしの自転車に乗ることができる。					

※A~E は幼児を、○は達成している状況を表している。



①事前の課題提示教材

②廊下でのかけっこ



③遊戯室のサーキット遊び

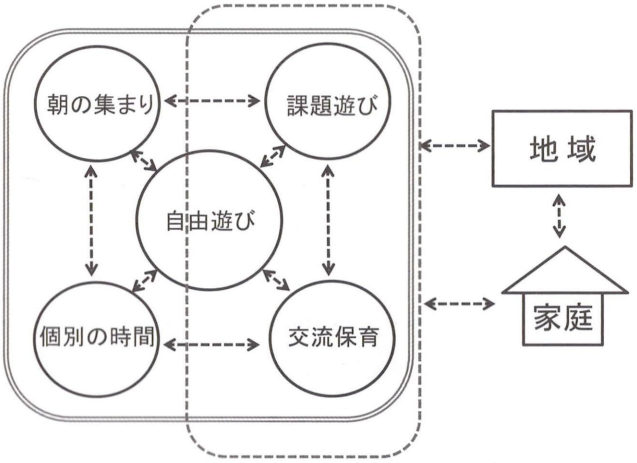
図１　自発的に活動できる環境の構成（例）

遊び」に連続性を持たせる）、交流保育の運動遊びが幼稚部でもできるように環境を構成する（「交流保育」と「運動遊び」の遊びに連続性を持たせる）、幼稚部で遊んだ運動遊びを交流保育の課題遊びや自由遊びの時間にもできるようにする（「運動遊び」と「交流保育」、「自由遊び」に連続性を持たせる）等の取り組みを行った。

（２）遊びや学びの連続性

１）遊びや学びの連続性

図２は、幼稚部の遊び（交流保育を含む）と家庭、地域を示した図である。それぞれの遊びの場に共通する遊びや学びを持たせることで、幼児自らが知っている遊びや経験した遊びを行おうとすることが期待できると考えた。運動遊び(課題遊び)では、自由遊びと交流保育の遊びに連続性を持たせるようにした。



※点線内は運動遊びの連続性

図２　遊びや学びの連続性

幼児は課題遊びや朝の集まり、個別の時間、交流保育では教員の意図を感じながら遊びを経験する。自由遊びでは、課題遊びや朝の集まり、個別の時間、交流保育で経験し興味や関心を持った遊びができる、自分の好みの遊びもできるといった環境を構成するようにした。そうすると、幼児自らが遊びを選択して遊びだしたり、いっしょに遊ぶ友達や大人を選択したりするといった姿があらわれた。中には、好きな遊びを選択できず、室内を走り回っているだけの幼児もいて、幼児のこれまでの経験や障害からくる個々の様相が見られた。

２）遊びや学びの連続性の実際

幼稚部の運動遊びでは、４人の幼児で運動会ごっこを行った。絵本で運動会のかけっこを読み聞かせた後に廊下を使い、ゴールテープに向かってかけっこ遊びをした。その後、遊戯室で４・５歳児のサーキット遊び、玉入れ遊びを行った。運動遊び後の自由遊びの時間にも、遊戯室に運動遊びの環境を残しておくと、幼児たちはそれぞれにやりたい運動遊びを楽しんだ。後日、交流保育の「運動会ごっこ」では、大勢の保育園児と幼稚部の運動遊びで経験した、かけっこ、サーキット遊び、玉入れ遊び、ダンスを自ら保育園児と楽しむ幼児の姿が見られた（図３）。

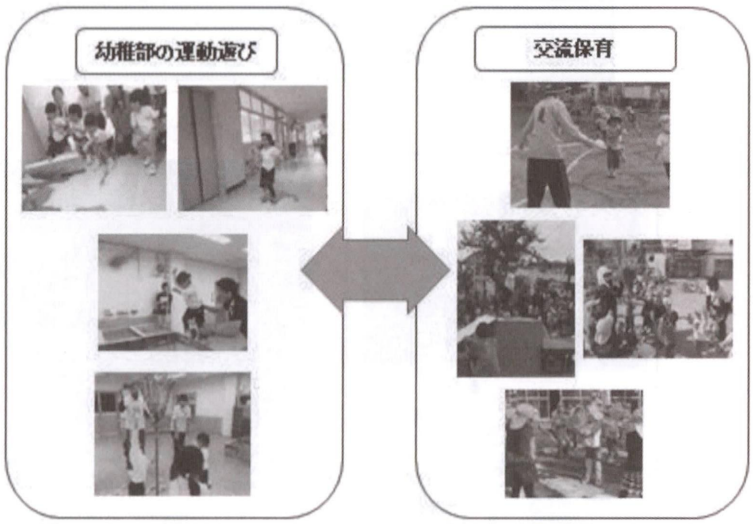


図３　幼稚部の運動遊びと交流保育の連続性遊

２．一人ひとりの遊びの支援と学び

幼児一人ひとりの遊びの支援計画を作成して支援にあたった。遊びの支援例として、Ｃ児の支援と経過を示し、その後他児の経過の概略を示す。

（１）Ｃ児の遊びの支援

Ｃ児はダウン症５歳児で、交流保育の経験は今年度で２年目であった。

1）アセスメント

アセスメントは2018年４月に実施し、K式発達検査、乳幼児発達スケール、S-M社会生活能力検査、LCスケール等の諸検査や生活や遊びでの臨床観察から行った。以下に概略を示す。

・生活年齢：６歳３ヶ月
・発達年齢：２歳５ヶ月
・運　　動：階段の上り下りが左右交互に脚をだしてできる。ケンケンはまだできないが両脚跳びができる。
・認　　知：手本を見て積み木を高く積むことができる。
・言　　語：音声言語による名称や用途の理解ができる。名称の発語がある。
・行動特性：知らない場所や経験がないことに慎重である。泣き声を聞くと萎縮してしまう。体を動かすことを好む。
・遊　　び：大人と関わりながらの人形遊び、ままごと遊びを好む。一人遊び、平行遊び

2）支援の課題・内容・方法

表５　幼稚部の運動遊びと交流保育の連続性遊

支援目標	支援内容・方法
・援助を受けて、自分から友達に関わって遊ぶ。	・ままごと遊びなどで、料理の皿を他児に持って行くなど、はじめは支援者が提案して遊びのきっかけを作る。 ・遊具を他児といっしょに使うことや順番に使うことなど、はじめは大人が支援する。上手にやっている時には賞賛する。
・好きな遊びでじっくりと遊ぶ。	・支援者が「おもしろいね」と声をかけるなどして、遊びを盛り上げ、遊びが続くように支援する。

3）C児の遊びと学びの経過

C児の経過を表６、表７に示す。表では「交流保育」と「幼稚部の遊び」の欄で具体的な様子を、「遊びの経過」の欄では遊びの変遷を時系列で示した。点線の矢印は幼稚部の遊びと交流保育の遊びの連続性の一端を示した。

慎重な性格で、友達の泣き声を聞くとトイレに逃げ込んでしまうC児の初年度（４歳）は、安心できる場所で一人遊びをし、交流保育では教員と共に行動しながら活動に参加していた。５歳になり、交流保育も２年目を迎えた。少人数の幼児で遊ぶ幼稚部では、体を動かすことに喜びを見いだすようになり、運動遊びを頻繁に行うようになった。交流保育では友達や保育園にようやく安心感が持てるようになり、日課や遊びに自分から入っていくことが見られるようになった。幼稚部の造形遊びでスタンプ遊びを数日続けて行うと、自由遊びの時間にもスタンプ遊びやクレヨン遊びをするようになった。交流保育でスタンプ遊びを行うと、多くの保育園児に混ざってクレヨン遊びを楽しんだ。運動遊びの他に造形遊びが加わり、７月になると教員にピアノの演奏をリクエストする遊びも加わり、楽しめる遊びが増えるとともに、交流保育でも年下の２歳児の保育園児とのやりとり遊びも見られるようになった。幼稚部の幼児と追いかけっこ遊びが見られるようになってからは、幼稚部と交流保育の水・プール遊びでは幼児や４歳児との遊びに興じた。その後、同年齢の幼児や保育園児との遊びのバリエーションも広がり、やりとりを活発に行うようになった。10月の運動会ごっこ（幼稚部の運動遊び）や交流運動会では幼児やたくさんの保育園児とともに存分に運動遊びを楽しみ、多くの保育園児たちと競技

するＣ児の姿に保護者、関係者の視線が集中した。具体的な経過については表６、表７に記述する。

表６　Ｃ児の遊びと学びの経過①

月日	交流保育		幼稚部の遊び	遊びの経過
初年度 (2017)	乳児がいる2階で過ごすことが多く、１階や園庭で行う3歳、4歳5歳の異年齢保育や同年齢保育では、教員と活動に参加することが多い。 	初年度 (2017)	大声を上げる友達、元気な友達を避けてベビーカーに人形を乗せて一人で遊ぶ。友達の泣き声を聞くとおしっこを漏らしてトイレに入ってしまい、長時間出てこられない。とても臆病で慎重な様子が見られた。 	安心できる場所で一人遊びをする。教員と遊ぶ。
２年目 (2018) 第１回 ６／１３ (水)	**【はじめましての会】**昨年と同じ部屋で、生活の見通しも持て、なじみの友達もいる安心感から、友達の遊びの輪に自分から入っていこうとする。朝の支度をスムーズに終え、はじめましての会では保育園児に自分から挨拶し、自己紹介もできた。朝の体操では、自分から体操の輪に入って踊る。自由遊びでも、保育園児が先生と遊んでいる中に自分から入り、三輪車、手押し車、シャボ玉、砂場で遊ぶ。給食は保園児に誘われて、いっしょ給食を食べる。 	４月 ～ ６／１３	**【自由遊び】**５歳児になり、体を動かして積極的に遊ぶようになる。遊びは一人遊びである。4月当初、園庭やグランドで滑り台、ブランコ、太鼓橋で遊ぶ。５月～６月には雑草の茎をつかんで引っ張る遊びをする。室内では、かくれんぼごっこや巧技台の上り降り、台からのジャンプなど体を動かす一人遊びを積極的にする。 	**【幼稚部】**体を動かす遊びを積極的にするようになる。 **【交流保育】**２年目になり、保育園の部屋や友達に安心感が持てる。日課や遊びに自分から参加する。
第２回 ６／２０ (水)	**【スタンピング】**園児の中に自然に入って手をつなぎ、朝の体操をする３歳児といっしょに絵の具でスタンプ遊びをする。紙にスタンプや手形をいっぱいつけて遊ぶ。 安心できる乳児がいる２階の部屋に行き、２歳児とポテトのやりとりしてたり、階段を上り下りしたりして遊ぶ。 	６／１４～	**【課題遊び（造形遊び）】** スタンプ遊びを3日間連続で行い、何枚も紙を使って作品を作った。 **【自由遊び】**造形のコーナーで、クレヨンを使って自由画を楽しむ。人の顔を描く。「おじちゃん」「○○ちゃん」とイメージする。 	**【幼稚部】**造形遊びが遊びに加わる。 **【交流保育】**２歳児相手のやりとり遊び、３歳児と造形遊びをする。
第３回 ６／２７ (水)	**【縁日ごっこ】**手押し車を引いて園庭を回って遊ぶ。３歳児、４歳児の輪に自分から入って、昆虫音頭を踊る。５歳児の竹太鼓の演奏を聴く。 	６／２１～	幼児の泣き声が苦手で、給食時や朝の集まり開始時にトイレに行くことが増えた。 **【自由遊び】**教員にピアノの曲を楽譜を指さしてリクエストし、曲を聴いて楽しむ。 	＊幼稚部以外の他の場所でも楽しむことができた。
第４回 ７／４	**【縁日ごっこ】**⑨５歳児の竹太鼓の演奏を聴いた後、幼児の輪の中に自ら入り、神輿の練り歩きをし、踊りをして楽しむ。 	６／２８～	**【自由遊び】**ともだちと追いかけっこをしたり、三輪車に乗って遊ぶ。 ○造形コーナーでかたつむりえるに色を塗ったり、自由画に人の顔）を描く。 	**【幼稚部】**ピアノをリクエストする遊びが加わる。
第５回 ７／１１	**【プール遊び】**⑪自ら４歳児のお友達の中に入って、話を聞く、準備運動をする入水前の列に並ぶ。宝さがし、教員に水をかける、先生の上に乗るなどの遊びをする。給食後は2階の部屋に行き、ブロック遊びをし、廊下に掲示してある絵をよく見ていた。 	７／５～	**【課題遊び（水・プール遊び）】** 水プールが始まり、存分に遊び、楽しんでいた。 **【朝の集まり】**昨年から「がたがたバス（先生の膝に乗る遊び）」は大好きである。 	＊好きな活動を通して、場所を超えて関心が広がる。 **【幼稚部】**幼稚部の友達といっしょに遊ぶことが見られるようになる。
第６回 ７／１８	**【すいか割り】**すいか割の順番を待っている間、保育園児と顔を寄せ合って遊ぶ。廊下の絵を指さして、教員に解説を求める。 	７／１２～	**【自由遊び】**○造形コーナーでの遊びができて以降、掲示された自分の絵をみたり、描いた絵を家庭に持ち帰り父母に見せたりする経験が重なっている。 	遊びのバリエーションが広がり、やりとりのある遊びが出てくる。
夏　休　み				
第７回 ９／５	**【お久しぶりの会】**夏休み明け、本人の所によく来る保育園児に自分から関わり、二階に行ったり、大型ブロックで遊ぶ。4歳児とプール。水の中で一緒に走ったり顔を水につけたりする。廊下に貼ってあるお友達の絵が気になる。 	９／３～	**【自由遊び】**夏休み明け、造形コーナーでお絵描きをする。 	**【交流保育】**仲のいい園児とやりとりがある遊びが多く見られるようになる。
第８回 ９／１９	**【歯科指導】**パネルシアターを４歳児と一緒に見る。その後園庭で遊ぶ。三輪車をこいだり、砂場でお山やプリンを作る。	９／６～	９月10日～18日まで病欠。	

表７　Ｃ児の遊びと学びの経過②

月日	交流保育		幼稚部の遊び	遊びの経過
第９回 ９／２６	**【大吉さんと遊ぼう】**前半は、4歳児とお絵かき、後半は、ホールで大吉さんの「つながりあそびうた」を楽しんだ。「ぴょんぴょんうさぎの歌」でぴょんぴょんととんで遊ぶ。	９／２０～	**【自由遊び】**	
第１０回 １０／３	**【運動会ごっこ】**準備体操、かけっこ、４歳児種目、５歳児種目、玉入れに教員の支援の下で参加した。体操や5歳児の表現は一部模倣、5歳児の戸板登りは積極的に取り組む。	１０／３～	**【運動遊び（運動会ごっこ）**積極的に参加。ジャンプ、懸垂での移動、戸板のぼり、玉入れなどに取り組む。	
第１１回 １０／１３	**【交流運動会】**たくさんの人々の応援を得て、準備体操、かけっこ、４歳児種目、５歳児種目（戸板登り）、玉入れ、親子競技に参加。戸板登りの台に上りポーズを決めた。玉入れはかごに玉をいれることができた。	１０／１３～	１０月６日～１４日は期間休み	幼稚部の幼児、保育園の多くの園児とともに積極的に遊ぶ様子がある。
第１２回 １０／１７	**【運動会ごっこ】**サンサン体操、かけっこ、踊るぽんぽこりんではポンポンを持って一緒に踊る。 ５歳児のリレーをHちゃんと一緒にぽんぽんをもって応援する。	１０／１７～	**【自由遊び】**「線路は続くよどこまでも」の曲に合わせて、はこを引っ張って、E児、B児と電車ごっこをする。 「Eちゃん」など、友達の名前をよく口にするようになる。	保育園では、運動会ごっこなどの課題遊びにも積極的に参加していたが、自分のやりたいことをはっきり主張する場面が増える。保育園の友達の中に自然に入っているが、特定のお友達に積極的に関わる場面も出てくる。
第１３回 １０／２４	**【運動会ごっこ】**おどるぽんぽこりんの時は砂場で遊び、玉入れの時は参加し楽しんだ。その後、園庭で滑り台、砂場で園の友達と遊んだ。	１０／２４～	**【自由遊び】**ピアノを弾いてと教員にリクエスト。「きのこ」「まっかだな」がお気に入り。歌詞を覚えて自分で歌う。	
第１４回 １０／３１	**【散歩】**保育園から幼稚部園庭へ歩いてきて、外遊具で遊ぶ。園児がいっぱいの中、砂場の真ん中で遊んだり、滑り台への上りも手すりを使いながら上った。園への帰り道もしっかり歩くことができた	１０/３１～		

４）Ｃ児の遊びへの興味や社会性の推移

①遊びへの興味の推移

表８はＣ児が遊んでいる遊びについて、幼稚部で見られる遊び、交流保育で見られる遊びを評定したものである。遊びの分類はビューラー(1928)の分類を参考にした。評定は遊びの頻度の多い順番に１～４とした。

幼稚部では４月当初、大人とのやりとりを含めたおままごと遊びが多かったが、12 月には楽器遊びやピアノの演奏をリクエストする遊びが多く見られるようになった。交流保育の開始時には、砂遊びやブロック遊びが多く見られたが、12 月には滑り台、フラフープ、三輪車の他、園児を追いかけたり、追いかけられたりする鬼遊び様の遊びが頻繁に見られるようになっている。

②遊びを通した社会性の推移

表９はＣ児の遊びを通した社会性について、幼稚部で見られる様子、交流保育で見られる様子を評定したものである。遊びの分類はパーテン(1932)の分類を参考にした。評定については、遊びの頻度の多い順番に１～４とした。

幼稚部では４月当初、人形遊びの一人遊びやおままごとの平行遊びが頻繁に見られたが、12 月には楽器遊びや追いかけっこなどの連合遊びが頻繁に見られるようになった。交流保育では当初、三輪車や手押し車の一人遊びが頻繁に見られたが、12 月には追いかけっこ、他児との山作りが頻繁に見られるようになった。

（２）他児の遊びの経過と学び

１）Ａ児の経過

Ａ児は男児４歳で、自閉症スペクトラム障害があり、交流保育は１年目であった。ジャングルジム，滑り台、走り回る遊びを好んだ。いろいろな物がある保育園で最初はトイレに関心

表８　Ｃ児の遊びに見る興味の推移

	年度当初				１２月			
	幼稚部（４月）		交流保育（６月）		幼稚部		交流保育	
	評定	遊びの様子	評定	遊びの様子	評定	遊びの様子	評定	遊びの様子
感覚遊び：感覚器官を使った遊び。（例）物をなめる、音を聞く、物を触るなど。								
運動遊び：（例）運動機能の発達に伴う遊び。紙を破る、自転車乗り、サッカーなど。	3	三輪車 外遊び 園庭滑り台	2	三輪車 滑り台 手押し車			1	滑り台、フラフープ、三輪車追いかけて（られて）走る
想像遊び・象徴遊び：象徴機能の発達に伴う遊び。（例）ままごと、怪獣ごっこなど模倣を喜ぶ。	1	ままごと（大人とのやりとりを含む）	3	ままごと	3	ままごと	2	砂場でケーキ屋さん
受容遊び：鑑賞を喜ぶ。（例）絵本を見る、童話を聞く、テレビを見るなど。	2	ピアノで童謡を弾いてもらい聴く			1	楽器遊び・ピアノで童謡をひいてもらい聴く。	3	絵本を見る 友だちの絵を見る
構成遊び：イメージしたものを作ることを喜ぶ。（例）ブロック遊び、砂遊び、工作など。	4	砂遊び　かくれんぼ　楽器あそび	1	砂遊び（山を作る）ブロック遊び	2	自由画　牛乳パック工作	2	砂遊び（山作り）お絵描き

表９　Ｃ児の遊びに見る社会性の推移

	年度当初				１２月			
	幼稚部（４月）		交流保育（６月）		幼稚部		保育園	
	評定	遊びの様子	評定	遊びの様子	評定	遊びの様子	評定	遊びの様子
何もしていない行動：その時その時に興味あることを眺めている。ぶらぶらしている。								
ひとり遊び：ひとりぼっちで、他の子どもがいても無関係に遊ぶ。	1	人形遊び（食べさせる・おさんぽ	1	三輪車　手押し車	2	お絵描き	3	三輪車　手押し車ブロック
傍観者的行動：他の子どもの遊びを傍観している。話しかけたりするが遊びには加わらない。								
並行遊び：他の子どもと同じような遊具で遊ぶが、いっしょに遊ばずそばで遊ぶ。独立遊び。	1	ままごと	2	砂場でプリン作り	3	お絵描き・牛乳パック工作	2	フラフープ
連合遊び：他の子どもといっしょに遊び。おのおのが同じような活動をしている。	3	（大人が仲介しての）かくれんぼ。	3	児と砂場で山つくり	1	楽器遊び　追いかけっこ	1	追いかけっこ 他児と砂場で山つくり
協同的あるいは連合的な遊び：何かを作ったり、ゲームをしたりするために組織を作って遊ぶ。指導的役割をもつ子どもが表れる。								

がいく、その後、保育園の保育士に関心が向くが、保育士の先生への働きかけがわからなかったため、たたいて先生の注意を引こうとする。「あそぼ」と声をかけることを知ってからは、交流保育でも、幼稚部でも「せんせい、あそぼ」と声がけをして、追いかけっこ遊びをする姿が頻繁に見られるようになり笑顔が増えた。

２）Ｂ児の経過

Ｂ児は女児４歳で、自閉症スペクトラム障害があり、交流保育は１年目である。聴覚過敏でイヤーマフを使用していたが、遊びに夢中になるうちに幼稚部でもイヤーマフを使わないようになり、その後交流保育でもイヤーマフを使わなくなった。おままごとの一人遊びを毎日のようにしていたが、幼稚部で他の幼児の近くで遊ぶようにすると、近くで遊んでいた幼児の遊びが終わり他の場所に行くと、その幼児と同じ遊びをするようになった。他の幼児の遊びを見て、自由画、ピアノのリクエスト遊び、絵本遊び、パズルなどの遊びもするようになった。Ｃ児の遊びには特に関心があることがわかった。交流保育でも、保育園児との平行遊びが見られるようになり、安心できる保育園の環境を一年かけて認識できた。

3）D児の経過

D児は男児５歳で、自閉症スペクトラム障害があり、交流保育は２年目である。周囲の状況により転動的に動き回る。１年目の交流保育では多くの保育園児がいる保育園に行くことに抵抗があり、イヤーマフ等の利用も検討されたが、本人の目の前の遊びに興味をもたせるように働きかけると、遊びや活動に注意や興味がいくようになる。イヤーマフの必要は十分になくなっていた。２年目になり、日課の見通しがもてるようになり、保育園の日課や遊びに自分から取り組むようになった。

恐竜や電車を好んだが、手先の細かな操作は苦手であった。幼稚部の遊びに色塗り遊びや牛乳パックでの模型作りを自由遊びの造形コーナーに用意すると、少しずつ恐竜や電車の色塗り遊びや模型作りが続けられるようになった。造形コーナーで作った作品は家庭にも持ちかえり、家庭でも造形遊びをするようになった。色をつけた恐竜をもって、他の幼児を追いかけるなどの鬼遊びをするようになった。交流保育でも保育園児たちと水・砂遊びなどに集中するようになり、平行遊びから保育園児といっしょに遊ぶ、園児達と砂山を作ったりするなどの連合遊び、協同遊びになっていった。

Ⅳ　考察とまとめ

本研究では、研究主題にある「主体的・協働的な学び」を幼児期の発達の特性を踏まえて「幼児自らが“もの”や“人”にかかわって遊ぶ姿」と解釈した。研究の取り組みとしては、幼稚部の幼児全員を視野に入れた支援の在り方と一人ひとりの遊びの支援を検討した上で、幼稚部の遊びや交流保育の遊びに連続性をもたせる実践を行い、幼児の育ちからその支援を検証した。

１.「幼児自らが“もの”や“人”にかかわって遊ぶ姿を求める支援」の在り方

幼稚部に通学する幼児は４歳児、５歳児であり、家庭生活から離れてあらたに集団生活に適応していくという発達期の子供達であり、障害をもっている子供達である。そのために、発達期の特性と障害の特性を的確に把握しながら、学校生活を共にする大人との安心感を構築し、生活リズムを形成し、家庭生活と学校生活との連絡を密にはかっていくといった、発達と生活全般に留意した支援が不可欠となる。表３の“幼稚部の授業のポイント”には幼児期の発達や障害の特性を受け止める留意事項も含めた。(各項目の具体的な実践やその検証については、別冊の“事例集”を参照されたい。)

さらに、本研究では“遊びや学びの連続性”を「幼児自らが“もの”や“人”にかかわって遊ぶ姿を求める支援」の視点として取り上げ、３年次の実践研究より検証してきた。幼児期は周囲の環境への関心や興味を育む初期学習を行う大切な時期であり、注意や関心が持続するまでには十分育っていない時期でもある。その時期には環境の構成に留意し、幼児自らが注意や関心を向けられるように、生活場面が変わっても注意や関心をつないで経験でき、学べる環境が不可欠となる（図２)。

幼稚部の遊びと交流保育では、幼稚部と保育園双方の遊びや学びの連続性を形成するために、合同会議や担当者間の連絡、双方の保育や教育の見学を通じて、幼稚部と保育園の教育や保育の方針、保育内容の情報交換などを必要に応じて行い、幼稚部と保育園双方の環境の構成等に勤めた。その成果が、幼稚部と交流保育の保育園で見られた４人の幼児の姿に現れたと考える。

２．一人ひとりの遊びの支援と学び

幼児は個々の経験により、同じ生活年齢でも発達の様相が異なる。さらに、障害のある幼児については特徴的、個別的な発達の様相が見られる。幼稚部の幼児には発達、経験、障害といった側面から個々の実態把握と支援が必要なことは言うまでもない。個々の実態を把握する

とにより、幼児に妥当な課題や支援の設定を可能にし、妥当な課題が設定されるからこそ育ちや学びの経過が浮かび上がる。

C児の遊びや学びの経過では、少人数の幼稚部で一人遊びや教師との遊びをしている４歳の姿から、幼稚部で運動遊び、造形遊び、ピアノ遊びなどの遊びを通して主体性が育ち、さらにその過程で、幼稚部と交流保育の遊びに連続性を持たせたことにより、多くの保育園児と遊ぶ姿が育まれた。そこにはC児の「幼児自らが“もの”や“人”にかかわって遊ぶ姿」があったと言える。それは、少人数の幼稚部での支援と、多くの保育園児がいる交流保育での支援がなければ実現できなかったものと考える。紙面の関係上、他児については詳細な記述はできなかったが、一人ひとりに経過は異なるが、「幼児自らが“もの”や“人”にかかわって遊ぶ姿」が見られていたことを報告する。

Ⅴ　今後に向けて

本研究では、幼児期の主体的・協働的な学びを育む支援を幼稚部の遊びと交流保育の遊びを通した学びの中で育まれることを検証してきた。そして、遊びや学びの連続性を構築しながら支援をしていく中で、自由遊びの時間に表れる幼児の姿に、個々の主体的・協働的な学びの姿が表れることが見えてきた。

今後の実践の中で、交流保育を含めた幼稚部の遊びおける自由遊びの位置づけを明確にし、個々の遊びの支援と事例を蓄積することにより、発達や障害に応じた学びを育む支援がさらに明らかにしていけるのではないかと考える。

資料

平成30年度の研究協議会（2019年1月25日開催）では、幼児期の「主体的・協働的な学びを育む支援」の在り方を研究授業とポスターによる事例発表で行った。分科会前の時間を使って、交流保育の実際の様子をＶＴＲで分科会参加者に紹介した。そして、分科会では「主体的・協働的な学びにつなげる 幼稚部の遊びと保育園との交流―幼児自らが“もの”や“人”にかかわって遊ぶ姿を求めて― 」というテーマでシンポジウムを行った。話題提供は本校幼稚部（小泉浩一）と東久留米市立しんかわ保育園（吉野豊子氏）が行い、指定討論は東京学芸大学教育実践研究支援センター（橋本創一氏）が行った。【資料１】として研究授業の学習指導案を、【資料２、３】として吉野氏の話題提供の原稿と、保育園の保護者対象のアンケートのまとめを、【資料４】として橋本氏の指定討論の原稿を掲載する。　（文責　小泉）

参考文献

東京学芸大学附属養護学校（2005）研究紀要 第50号.
東京学芸大学附属養護学校（2006）研究紀要 第51号.
東京学芸大学附属支援特別支援（2016）研究紀要 第60号.
文部科学省(2017) 特別支援学校 幼稚部教育要領
東京学芸大学附属特別支援学校（2017）研究紀要 第61号.
東京学芸大学附属特別支援学校（2018）研究紀要 第62号.
文部科学省(2018) 幼稚園教育要領
厚生労働省(2018) 保育所保育指針

【資料 1】

幼稚部 コミュニケーション支援

「朝の集まり」学習指導案

日 時 平成 31 年 1 月 25 日(金曜日)10:00～10:30
対 象 幼稚部ひかり組4・5歳児学年(男子2名 女子3名)
場 所 幼稚部ひかり組教室
指導者 山内裕史(MT)、蓮香美園 (ST1)、
田口悦津子(ST2)、小泉浩一 (ST3)

1．題材名

「朝の集まり～三びきのやぎのがらがらどんで遊ぼう～」

2．題材設定の理由

1）コミュニケーション支援「朝の集まり」

幼稚部での生活は、幼児のほとんどにとって家族と離れて過ごす初めての場となる。幼児期の子供が、教員との信頼関係に支えられて生活していくことは人と関わるための基盤となり、さらに他の幼児との関わりを通して、自分の感情や意志を表現する方法を学び、深め、豊かにしていくと言われている。そして、幼児期の子供にとっては遊びが生活の中心である。その幼児たちが登校し、毎朝、友達や先生と一緒に過ごす最初の時間となるのが「朝の集まり」である。

「朝の集まり」はコミュニケーション関係支援内容配列表における支援内容「友達と一緒に楽しむ（場・体験・遊びの共有)」の指導場面として教育課程に位置付いており、友達や教員と一緒に遊びを共有し楽しめるように幼児の好きな歌や手遊び、お話などをふんだんに盛り込んでいる。こうした遊びを経験していくことで、①好きな遊びの幅を広げていくこと、②自分の好きな遊びを何らかのかたちで選び、要求表現できることをねらいとしている。そして、この小集団（５名）での活動に、幼児が安心感と見通しをもって参加できるように、毎朝同じ時間に同じ場所で、繰り返しのあるプログラムを準備しながらすすめている。友達と一緒に行う活動に参加することで「何か楽しいことが起こる」という体験を積み重ねられるように、幼児が生活する（遊ぶ）姿を核に一人ひとりの発達や興味関心に即した内容を準備し、季節や年間行事と関連させながら指導計画を大きく４期に分け、段階的に指導している。

2）「朝の集まり」３期の設定

今年度の在籍児は５名で、ダウン症、自閉症スペクトラム障害、知的障害、精神運動発達遅滞と障害特性もそれぞれに異なる。幼稚部２年目となる５歳児が２名、今年度から入った５歳児１名、４歳児２名からなり、週に２日間、地域の保育園に並行して通園している幼児が１名いる。５人とも幼稚部の生活に慣れ、友達と同じ場所で安心して遊べるようになってきている。「朝の集まり」においても、１・２期で幼児は新しい人や環境に慣れ、安心感をもって自分の好きな遊びを選び要求する姿が見られるようになり、また、教員からの新たな遊びの提案に対しても期待して楽しむようになってきた。

自由遊びでは、友達がやっている遊びを同じように試してみる姿がよく見られるようになり、好きな遊びがそれぞれに増えてきた。特に、５歳児は友達に関わって遊びたいという気持ちを表すことが多くなった。好きな絵本も多く、「ぞうくんのさんぽ」では動物たちが倒れて池に落ちる場面、「むしたちのおんがくかい」では虫たちが流されてようやく水から脱出する場面、等々、緊張と解放が表現されている場面を好んで、繰り返し読んでいる。さらに最近の遊びでは、井桁ブロックを上へ高く倒れないように緊張しながら繋いで、繋げられた喜びを繰り返し味わう姿も見られていた。３期では、これらのことを踏まえて、新たな遊びを用意し、さらに友達と一緒に遊ぶ楽しさを積み上げたいと考えた。今回取り上げることにした「三びきのやぎのがらがらどん」は、世界中で読まれているとても有名な絵本で、子供たちに触れてほしい作品である。また、がらがらどんが橋を渡る際にトロルとやりとりをする場面はまさに“緊張と解放”であり、それがくり返し描かれていることから今の子供たちの実態とも対応し、楽しめる題材であると考えた。さらに、トロルとのやりとりの場面を使った遊びを用意することは簡単なコミュニケーション活動を盛り込みやすい。音楽も取り入れながら、一人ひとりが物語に親しみをもって積み重ねていけると考えた。

３．目標

○慣れた友達や教員と一緒に、簡単な歌や手遊びなどで遊ぶ。

○やりたい気持ちを表現し、ごく簡単なやりとりをする。

４．指導計画

年間を通じて 146 回実施。１年を４期に分けて季節や年間行事と関連させながら段階的に指導している。

期間	指導の重点	主な学習活動	
		課題としている要素	基本的な流れ等、指導内容･方法について
１期： （４月～） 29 回	新しい人や環境に慣れる。	共有・共感◎ 挨拶・返事◎ 模倣○ 選択◎ 要求◎ 注意喚起○ 発声・発語◎ 言語的応答性○	①歌・手遊び「はじまるよ」、②挨拶、③呼名（５歳→４歳へ順番に）、④歌・手遊び「がんばりまん」、⑤歌・手遊びなど「リクエスト」（シーツブランコ等、幼児に馴染みやすく、特に興味を示す活動の選択肢で５歳児がモデルとなって好きな活動を選ぶ楽しさを４歳児も積み重ねられるようにする）⑥次時の予定を聞く⑦挨拶
２期： （６月～） 54 回	教員が提案する楽しい活動で遊ぶことを経験する。	共有・共感◎ 挨拶・返事◎ 模倣○ 選択◎ 要求◎ 注意喚起○ 発声・発語◎ 言語的応答性○	③呼名（年齢は問わず席の順番に）、⑤歌・手遊び・絵本・パネルシアターなど「リクエスト」（選択肢を増やし、その子供なりの手段で「やりたい」要求を伝えてきた幼児から。）（①②④⑥⑦は、１期に同じ）
３期： (11 月～) Ａ：31 回 Ｂ：６回	教員が提案する活動を自ら楽しみ、その幅を広げる。	共有・共感◎ 挨拶・返事◎ 模倣◎ 選択○ 要求◎ 注意喚起○ 発声・発語◎ 言語的応答性◎	〈Ａ/月・火・金〉：③呼名（ランダムに）⑤歌・手遊び・絵本・パネルシアターなど「リクエスト」（季節や行事に関連する内容を追加。その他、下線に同じ） 〈Ｂ/木〉：④ごっこ遊び「がらがらどんで遊ぼう」（遊び方を知り、教員とのやり取りに慣れ繰り返し遊ぶ）、（①②③⑤⑥⑦は、３期Ａに同じ）
４期： （２月～） Ａ：17 回 Ｂ：７回	教員や子供同士のコミュニケーションがより活発になるような遊びを楽しむ。	共有・共感◎ 挨拶・返事◎ 模倣◎ 選択○ 要求◎ 注意喚起○ 発声・発語◎ 言語的応答性◎	〈Ａ/月・火・金〉：（３期に同じ） 〈Ｂ/木〉：④ごっこ遊び「がらがらどんで遊ぼう」（遊び方を変化させながら遊ぶ）、（①②③⑤⑥⑦は３期Ａに同じ）

※３期：Ｂ指導計画（全６ｈ）
（１）人形劇を見よう・・・・・・・・・１ｈ
（２）がらがらどんの遊び方を知ろう・２ｈ
（３）がらがらどんになって遊ぼう・・３ｈ（本時は３／３ｈ）

５．本時の学習

（１）本時の目標

○慣れた友達や教員と一緒に、がらがらどんの話で遊ぶ。

○やりたい気持ちを表現し、トロルとやりとりする。

（2）幼児の実態と個人目標

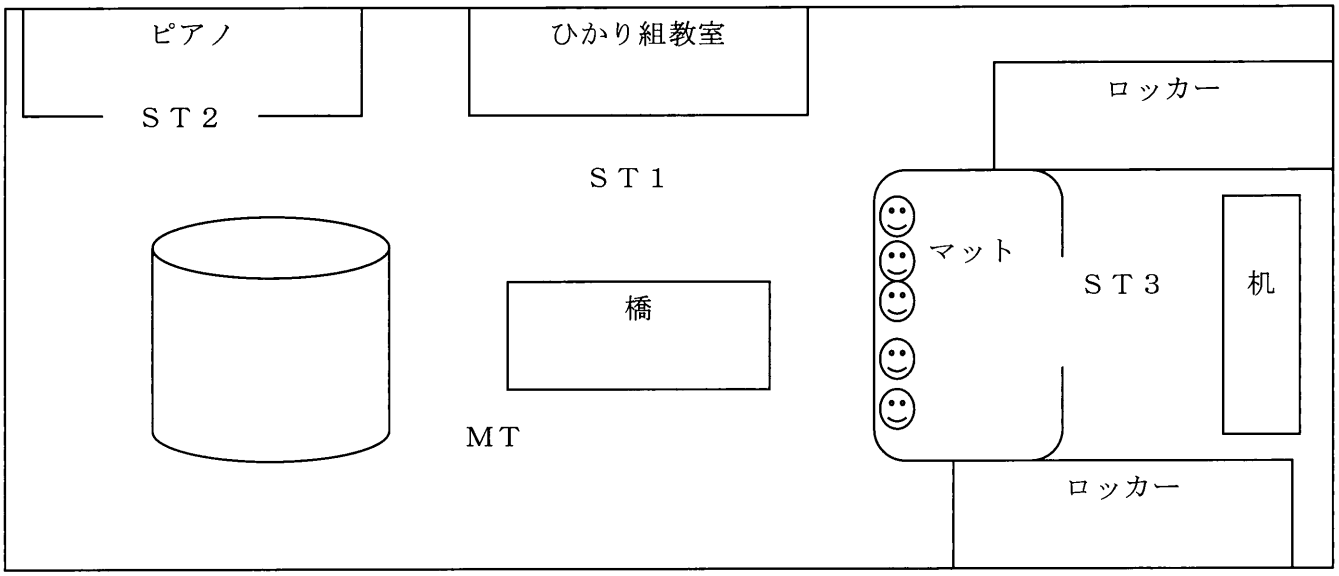
幼児	実態	個人目標	指導の手だて	関連する個別教育計画の目標
A	・がらがらどんが橋を渡る場面は好きである。友達と同じ場所で遊びを楽しめるが、順番を待ったり、交代したりする経験はまだ積み上げていく必要がある。 ・教員に注意喚起をし、やりたい気持ちを短い単語で表すことが増えてきたが、表せないときもある。	☆指名されてから遊ぶ。 ★やりたい気持ちを挙手で表す。	○やりたい気持ちを表現したら、すぐに遊べるようにし、待てないときにはSTが共感しながら待てるように促す。 ●ＭＴが正面で誘導する。	・読んでほしい絵本を選択し、要求する。
B	・がらがらどんが橋を渡る場面の伴奏を楽しんでいる。友達と同じ場所で遊ぶのは好きだが、順番を待ったり、交代したりする経験はまだ積み上げていく必要がある。 ・教員に注意喚起をし、やりたい気持ちをサインで表すことが多いが、場面や活動に偏りがある。	☆指名されてから遊ぶ。 ★やりたい気持ちを挙手で表す。	○やりたい気持ちを表現したら、すぐに遊べるようにし、伴奏に聞きいっていたら友達の楽しんでいる様子も見るように促す。 ●ＭＴが正面で誘導する。	・カードで好きなこと（歌や手遊びなど）を選び、教員の支援を受けてサインを表出する。
C	・やぎの帽子を被り、がらがらどんの遊びを楽しんでいる。友達と一緒に遊ぶことが好きで、友達の活動の様子を見て楽しむこともあるが、新しい活動に尻込みすることがある。 ・積極的にやりたい気持ちを表現し、二語文程度の言葉で伝えられることが増えた。簡単な問いに応えられることも増えつつある。	☆トロルを怖がらずに遊ぶ。 ★トロルの問いに応え、名前を言う。	○トロルは本児の様子に応じて加減する。 ●トロルは、短い単語で問いかける。	・表出する語彙を増やす。
D	・がらがらどんの話が好きで、遊びを楽しんでいる。友達と一緒に楽しめるが、自分のやりたい気持ちが先行し順番が待てないことがまだある。 ・積極的にやりたい気持ちを表現し、二～三語文程度の言葉で伝えられることが増えた。簡単な問いに応えられることも増えてきている。	★指名されてから遊ぶ。 ☆トロルの簡単な質問に応える。	●友達が先にやっている様子を見るように促し、待っている姿をしっかり褒める。 ○トロルの質問に応えられなかったら橋を渡るところからやり直す。	・教員に支援されて、友達と一緒に楽しめる遊びを拡げる

E	・やぎの帽子を被り、がらがらどんの遊びを楽しんでいる。友達と一緒に遊びたい気持ちが強い。友達の活動の様子を見て楽しむこともあるが、やりたい気持ちが先行し前に出てくることがある。 ・積極的に挙手し、やりたい気持ちを表現する。促されると発声するようになった。	☆指名されてから遊ぶ。 ★トロルの呼名に応じ、発声して返事をする。	○やりたい気持ちに共感しながら待てるように促す。 ●発声しないときはトロルがモデルを示す。	・やりたい遊びや欲しい物を伝えるとき、「や（って）」等の音声模倣をする。

（3）準　備　物

「がんばりまん」・「三びきのやぎのがらがらどん」の絵カード、ゲームボックス×３、ボールハウス、草（スズランテープ）、マット

（4）備考



（5）展開

時間	学習活動	指導内容	指導上の留意点	個人目標☆・手だて○（個別教育計画に関連した目標★手だて●）				
				A	B	C	D	E
10:00	○「はじまるよ」の手遊びをする。 ○お辞儀をしながら「お早うございます」を言う。 ○呼名に応じ返事をする。 ○「がんばりまん」を歌ったり、身振りを模倣したりする。	・「朝の集まり」が始まることに気付く。 ・期待を高める。 ・友達と一緒に挨拶をする。 ・教員に注目し、元気に呼名に応じようとする。 ・楽しい気持ちを高める。	・ＳＴ３はピアノを弾く。 ・模倣や見ている様子を認め、楽しい雰囲気を作る。 ・ＭＴが誘導する。 ・ＭＴは幼児の正面で視線を合わせて呼名する。 ・ＳＴは楽しめるように援助する。					
10:10	○がらがらどんカードを見る。 ○がらがらどんの帽子を受け取り、かぶる。 ○ＭＴのがらがらどん遊びを見る。 ○やりたい気持ちを挙手や返事で伝える。	・がらがらどんごっこをして遊ぶことが分かる。 ・がらがらどんごっこをする気持ちを高める。 ・やりたい気持ちを高める。 ・ＭＴの発問に応答する。	・カードを譜面台に置き、注目するよう促す。 ・ＳＴは、幼児の気持ちを高める言葉掛けをする。 ・楽しさが伝わるようにやって見せる。 ・ＭＴに注目するよう促す。	☆指名されてから遊ぶ。 ○やりたい気持ちを表現したら、すぐに遊べるように	☆指名されてから遊ぶ。 ○やりたい気持ちを表現したら、すぐに遊べるように	☆トロルを怖がらずに遊ぶ。 ○トロルは本児の様子に応じて加	★指名されてから遊ぶ。 ●友達がさきにやっている様子を見るように	☆指名されてから遊ぶ。 ○やりたい気持ちに共感しながら待てるよう

				し、待てないときにはSTが共感しながら待てるように促す。	し、伴奏に聞きいっていたら友達の楽しんでいる様子も見るように促す。	減する。	促し、待っている姿をしっかり褒める。	に促す。
	○一人ずつ遊ぶ。 ①トロルの発問に応え（返事等）橋を渡る。	・トロルの問いかけを聞き、応答する。	・応答しない場合は再度、橋を渡り直す。	★やりたい気持ちを挙手で表す。 ●MTが正面で誘導する。	★やりたい気持ちを挙手で表す。 ●MTが正面で誘導する。	★トロルの問いに応え、名前を言う。 ●トロルは、短い単語で問いかける。	☆トロルの簡単な質問に応える。 ○トロルの質問に応えられなかったら橋を渡るところからやり直す。	★トロルの呼名に応じ、発声して返事をする。 ●発声しないときはトロルがモデルを示す。
	②山で草を食べるふりをして遊ぶ。	・橋を渡れた開放感を味わう。	・開放感を安全に味わえるように雰囲気を作る。					
10:25	○トロルと一緒に踊る。	・友達や先生と一緒に楽しむ。	・教員は楽しい雰囲気を盛り上げる。					
	○席に戻る。	・終わりが分かる。	・幼児のもっと遊びたい気持ちに共感しつつ遊びを終える。					
10:30	○「終わります」にあわせお辞儀をする。	・友達と一緒に終わりの挨拶をする。	・MTが誘導する。					

６．評価

（１）個人目標の評価

幼児	個人目標	評価	コメント
A	☆指名されてから遊ぶ。 ★やりたい気持ちを挙手で表す。	○ ○	待ちきれない気持ちをSTが言語化し、共感することで順番を待つことができた。
B	☆指名されてから遊ぶ。 ★やりたい気持ちを挙手で表す。	○ ○	ＭＴが正面で誘導することで挙手することができた。
C	☆トロルを怖がらずに遊ぶ。 ★トロルの問いに応え、名前を言う。	○ ○	
D	★指名されてから遊ぶ。 ☆トロルの簡単な質問に応える。	○ ○	友達が遊んでいる様子を見ながら、順番を待って遊ぶことができた。
E	☆指名されてから遊ぶ。 ★トロルの呼名に応じ、発声して返事をする。	○ ○	

（２）授業の評価

項目	評価内容	評価	コメント
目標	1　本時の目標が達成できたか。	○	
	2　本時の目標は適切であったか。	○	
活動	3　本時の目標に合った学習活動であったか。	○	
手立て	4　教材が適切であったか。	○	
	5　教材の提示方法は適切であったか。	○	
	6　教材の使い方は適切であったか。	○	
	7　教示方法は適切であったか（わかりやすさ・口調等）。	○	
	8　子どもへの援助方法は適切であったか。	○	
	9　集団の統制は適切であったか。	○	
	10 子どもの反応の捉え方は適切であったか。	○	
ＴＴ	11 教員間の役割分担とその連携は適切であったか。	○	
学習環境	12 本時の時間配分は適切であったか。	○	
	13 場面の設定は適切であったか。	△	指名を待つ際、マット上は姿勢が崩れやすかったので工夫が必要である。

（３）個別教育計画運用の評価

	個別教育計画との関連事項					
幼児	個別教育計画からの目標	個人目標達成度評価・コメント	場面の適切性評価・コメント	手立ての適切性評価・コメント	次時への課題	個別教育計画への課題
A	★やりたい気持ちを挙手で表す。	○	△	○	短い単語で表現する。	要求表出できる場面を拡げる。

B	★やりたい気持ちを挙手で表す。	○	○	○	問いかけに応じて、挙手をする。	自ら要求のサインを表出する。
C	★トロルの問いに応え、名前を言う。	○	○	○		
D	★指名されてから遊ぶ。	○	○	○		
E	★トロルの呼名に応じ、発声して返事をする。	○	○	○		

（4）指導計画の評価

単元・題材・授業名：朝の集まり～三びきのやぎのがらがらどんで遊ぼう～ 総時間数：６時間　　授業日：１月２５日（金）		
指導形態に関して	指導内容に関して	時間数に関して
・幼児の生活リズムが変わらないよう、幼児が活動に慣れている「朝の集まり」に新しい遊びを取り入れた。大きな混乱もなく遊びに導入することができた。	・遊びの中で「緊張と解放」を楽しんでいる段階の幼児に対して適した内容であった。一人一人の言語発達に応じて、指導することができた。	・対象の関心や注意の持続を考慮すると妥当な時間数であった。朝の集まり以外の自由遊びの時間等で同じ経験が自然にできるという場の設定を心がけた。

【資料 2】

「しんかわ保育園の保育と交流保育」

東久留米市立しんかわ保育園　主任　吉野　豊子

*しんかわ保育園の概要

しんかわ保育園は昭和 50 年に東久留米市内で初めて二階建て園として開園しました。東久留米市の公立保育園では唯一二階が乳児クラスにあります。駅からも近く園庭から電車が通るのも見えます。高台にあり、園庭の横に落合川がながれ、自然に恵まれています。開園時間は、朝の 7 時から夕方の 7 時という長時間保育も実施し、保護者の勤務地も都心に向かう方も多い層が多くいらっしゃいます。今年度、1 月現在、0 歳から 5 歳の 107 名が在園しています。

3 歳 4 歳 5 歳の幼児クラスでは、家庭や地域での経験が少なくなった「異年齢保育」を実施し、課題活動では年齢中心の保育を考えていますが、生活の場面中心に異年齢ではかかわることを大事に保育しています。日々の関わりの深さから、年齢は違っても互いの事を理解しあって関わる姿がそこここで生まれることで育つものを大事にしています。

*しんかわ保育園で大切にしていること　　園目標

・子どもたちの育ちが保障され子どもたちが喜んで通える保育園
・保護者が安心して預けられ、保護者のよりどころになる保育園
・地域のニーズにこたえ信頼される保育園

*目指す子ども像は・・

・かけがえのない存在であることを実感でき、自分らしさが発揮できるこども
・自分の思いや要求を表現できる子ども
・よく見、よく聞き、よく考えて行動できる子ども
・友達と共に行動することを喜び、友達を大切にする子ども

そして、具体的な保育の中身にそって一年間を 5 期に分けて期ごとにねらいを立てて保育をしています。

1期　(4 月～6 月)　新しい人や環境に慣れる。
2期　(7 月～8 月　)砂、水、泥んこ遊びを通して、心身を開放して十分遊ぶ。
3期　(9 月～10 月)　身体を使っての遊びを楽しむ。
4期　(11 月～１２月)　イメージの世界で友達と共感しあって遊ぶ楽しさを知る
5期　(1 月～3 月)　仲間意識を深め進級を意識する　伝承遊びを楽しむ

*保育園の一日の流れ・・年齢に合わせた日課を組みながら日々の生活を組んでいます。

*今年度の交流にあたり

昨年度はしんかわ保育園にとって初めてのひかり組と交流でした。昨年度は 5 人のひかり組さんが交流に来てくれていました。今年度はそのうちの 2 名が進級し、交流も新たな 4 歳児 2 名を加えての 4 名での交流になりました。

今年度を始めるにあたり、昨年度の交流を踏まえて、しんかわ保育園の中でも、ひかり組との交流のねらいを立てる事が望ましいと考えました。

そこで、

・いろいろな違い(個性・障害)のある子どもがいるということを知る
・違いを認め合って自然に交流する中でどの子も安心して居場所が見つけられる
・楽しい経験を(行事も含め)共有することで気持ちを繋げる(お互いをより知る)
・学大の職員と園の職員がかかわることで、大人への信頼感が広がり、安心できる大人の存在を実感する

という柱をあげました。

しんかわ保育園の中でも具体的に大切にしたいことや活動の内容も見通せるようになり、一年間

の計画も昨年度課題と感じた事などを今年度の計画では考慮する事、大きな行事でなくても、日々園の中で過ごすような時間の過ごし方も大切に考えるようにしました。
一昨年度は子どもたちの姿を具体的に語ることが１回しか持てなかったことも反省し、出来れば期ごとに持てるようにしたいという思いもお伝えする中で、年間の話し合うタイミング等も計画してスタートしました。
通信については昨年度から引き続けてきましたが、「線路は続くよ通信」で活動を知らせる便りは交流日には発行してきました。
*日々の交流や、行事を共にする中で大切にしてきたこと
ひかり組との交流は６月からスタートしました。しんかわ保育園の子どもたちはひかり組さんが来るという暮らし方が昨年度から継続していた事、２名は昨年度から交流していたお子さんだったので、子どもたちからは、「いつからくるの？」と期待の声もあるほどでした。
今年度１回目の交流はお互いの紹介からスタートしました。１期は、６月３０日に行われた夏祭りに向けてのちょうちん作りや盆踊りの練り歩きの再現など、園の行事に絡めて一緒に楽しめることも計画しました。２期は、夏ならではの活動も入れ、スイカ割やプール活動も楽しみました。保育園にはない夏休みをはさんでまた３期にあたる９月～の交流がスタート。
園でも大きな行事である「運動会」の取り組みが入ってきます。保育園では実際にやる競技は日々の活動の中で組み立てられて、その年度ごとに子どもたちの身体の動きや好きな題材などで内容が変化していくということがあります。今年度も事前に運動会に向けての取り組みが出来るのが２回ほどで、当日を迎えるということをどうしていくかが課題にもなりましたが、当日近くに学大の先生が来てくださり映像を撮ったり、具体的な競技をどうやるかを大人同士の話し合いで、それをひかり組さんも日々の活動に入れてくださっているようです。
昨年度は当日そして翌週も雨天になり実際に一緒に運動会をするのは今年度が初めてとなりましたが、子どもたちの競技だけでなく、お弁当を食べたり、親子競技を共に参加してもらい、保育園での活動をひかり組の保護者の方々にも見ていただける場が出来たことがよかったと思います。
４期に入り今年の「いもほり」は０歳児から５歳児までが学大の畑での活動を楽しませてもらいました。保育園から遠距離になる学大さんへ、ひかり組の子どもたちも含めて３，４，５歳が散歩として事前に行けたことで子どもたちが異年齢で芋ほりに出かけることの見通しも持てるようになりました。芋ほり当日に見せてもらった学大さんでのペープサートは、視覚で見せてから活動に移る丁寧な導入の方法を私たちも学ばせてもらいました。その後、芋を使った調理活動やイモ版画と、保育園の活動も充実させることが出来ました。
１１月には年長児が学大小学部の「おみせやさんごっこ」に参加させてもらいました。そこでの経験を年長の活動に繋げ、全園交流でお店屋さんごっこも取り組めました。しんかわの年長児にとっても、学大でのお店屋さんごっこでは、本物のお金でお買い物できる経験、また、ひかり組以外の学大の子どもたちとの触れ合いは大きな経験になりました。その後、学大さんの品物にあった「スノードーム」をお店屋さんでは絶対売り物で作りたい！！と子どもたちから声が上がり、全園の分を作り当日のお店屋さんの品物にしていました。お店屋さんの前の週にはひかり組さんと一緒に品物作りができ、当日は学大のこどもたちが、ホールの中でのびわのお店屋さんを在園児のいる中で長時間楽しんでいる姿がありうれしかったです。
活動ばかりでなく、生活の中での姿も、しんかわの子どもたちの様子を見て学んでいる姿がある子にも気づかされました。
昨年度から交流のあるＣちゃんは、４歳児にとってアイドルの様な存在。登園を待って、何人もの女の子たちが肩を組んだり抱き合ったりして給食の時には必ず「お隣にしよう」と約束しています。
給食に関してはこだわりも強い学大さんたち。その日のメニューによっては口にできなかったりもありそこは学大の先生にもお任せしているのですが、食べたいもののおかわりは，はじめは先生と一緒でないと来れなかったＤ君が、しんかわの子どもたちが自由にお代わりをする姿を見てひとりで行くようになったり・・と積み重ねの中で見せる姿がうれしくなります。

今年度から交流のA君の表情の変化にも驚かされます。しんかわの職員を試すように近寄ってきては足を踏んで「先生追いかけて！」のアピール。しんかわの中で安心できる大人が出来、それが広がっている・・まさに、ねらいに掲げた大人への信頼感が広がり、安心できる大人の存在を実感する・・ということなのだと思いました。

しんかわの保護者の受け止め・・

しんかわ保育園の保護者には、年度当初に学大との交流をしていることや、特に大きな行事としては「運動会」や「卒園式」の交流があることなどは保護者会等でお知らせてきました。今年度、運動会後にアンケートを保護者から取る機会が持て、その中で多数の意見を寄せていただきました。

「子どもたちがいろいろな個性を持った子がいる事知るいい機会だと思います。」

「親子ともども視野が広がると思います」等の意見、

「一緒にブロックしたよ。運動会も一緒にやるよ！」

「学大さんのお友達の名前を教えてくれた」などの意見が聞かれました。

運動会での様子では

「会場みんなでがんばれ！と応援して見守っていることに感動しました」

「みんなで同じ時間を共有できるのはいい事です」等の意見が寄せられていました。

私たちもはじめBちゃんがしているイヤマフの事は子どもたちへと話しましたが、それでもどれだけの理解をしているか心配もありました。しかし、アンケートの中でお家の人が「聞こえにくいのかな？」と話しているのを聞いて、「聞こえすぎちゃうんだよ」と教えてくれたというエピソードを聞き、私たちが思う以上に子どもたちがひかり組さん一人一人に関って理解しようとしていることがわかりました。B ちゃん自身も保育園の暮らしの中でイヤマフを外しても過ごせる時間が増えているのは、安心して過ごしている姿なのかとうれしくなります。

今後の交流への期待という点でも、我が子にとっていろいろな子どもと触れ合うことで優しい気持ちになってくれたら・・相手の思いを知る機会になってくれたらなど・交流の中で我が子が成長する姿を期待する声も多く寄せられました。

また、交流の中でひかり組さんがどう感じているか？何が得られたか？を先生たちや保護者の声を聞きたいという今後へ向けての課題も聞かれました。

たくさん子どもたちが具体的な名前を知っていて、親子の会話の中でも話されていたり、私たちが伝えた子どもの姿や特徴を理解してお家の人に伝えてることなどもわかり、アンケートを提出してくださった保護者の方々が、この交流を前向きにとらえて今後も行うことでお互いが幅広く子どもたちを分かり合うことを望んでいるという意見が多いことに私たちも気づかされました。

*今後に向けて

昨年度の反省を踏まえて今年度は、個々の育ちや課題を前期後期で話す場面を持ちました。具体的な課題を感じた時にすぐに話すことが出来なくても、ある程度見通しをもって伝え合う場面は今後も必要と感じています。

交流を進める上で、しんかわの子どもたちがどう関わりを持っているのか？また、在園児同士がかかわるようなトラブルがないことなど？子どもたちにとってひかり組さんの存在はどう映っているのか？ひかり組さんがしんかわの子どもたちから子ども同士としての刺激を受けているのか？など見えない部分で課題に感じることもありました。

しかし、この発表を前にしんかわでも話す機会を持ち、学大の先生との打ち合わせの中で、交流の中で、積み重ねてきたことでの子どもたちの変化や、しんかわの子どもたちが交流している中で育てている目には見えない成長があることも見えてきました。

現在普通児として入園している子どもの中にも育ちにくさやこだわりの強さなど保育園の集団生活の中で困難を抱えるお子さんも増えてきています。保育園の性質状、集団の中でその子の成長を促していくことが中心です。今年度も交流の中でひかり組さんの先生が関わっていただいた中で安心になる姿も感じていると思います。今後は目標の中で掲げたような相互の子ども理解も深められたら、双方にとっても、より交流が充実したものとなると考えています。

【資料3】

保育園児の保護者から見た特別支援学校幼稚部との交流保育

—アンケート調査の結果から—

保育園児（60名）の保護者に対し、幼稚部との交流保育に関するアンケート調査を合同運動会終了後に実施した。全体の46.7%にあたる28名の保護者から回答を得た。

幼稚部との定期的な交流について知っているかどうか尋ねたところ、全員が交流保育の実施について知っており、頻繁な交流（年間約30回）であることを知っている保護者は85.7%にのぼった。

交流を行うことについて5段階評価で尋ねたところ、100%が「良い」と回答し、「どちらかといえば良い」「どちらでもない」や否定的な回答は全くなかった。自由記述形式による交流についての感想は、1）いろいろな個性・障害の子どもがいるという多様性の理解の場、2）偏見を持たずに自然に交流する場、3）様々な経験を通して子どもが成長する場、4）親子ともに視野が広がる場として交流を評価していることが明らかになった。

交流について子供から報告があるかどうかについては、75%の回答者が、交流や特別支援学校の幼児について子供が話したことがあると答えた。報告の内容についての自由記述からは、1）一緒に遊んだことだけでなく、2）子供の名前を挙げて遊んだことを伝える子供も多いことが示された。また、3）障害という理解ではなく幼稚部の子供の特徴を率直に伝えている子供も多く、幼稚部の子供の来園を楽しみにしている記述の回答も多数見られた。

保護者自身が特別支援学校幼稚部の子供の顔あるいは名前をひとり以上知っている回答者は60.7%にのぼった。これは合同運動会の保護者参加だけでなく、保育園が交流後に毎回配布している交流通信「せんろはつづくよ」や幼稚部が保育園内に掲示している交流通信「交流ぴかりん」によるところが大きいと考えられる。

運動会のような行事を特別支援学校の幼児と一緒に行うことをどのように思うか尋ねたところ、96.4%が「良い」、3.6%が「どちらかといえば良い」と答え、「どちらでもない」や否定的な回答は全くなかった。自由記述では、1）保育園の子供にも特別支援学校の子供にも楽しさを一緒に共有でき刺激になって好ましい、2)特別支援学校の幼児が活動している姿を見て感動したといった声が多く、3）交流の様子を保護者が実際に知ることができたという回答や、4）活動の参加の仕方についての提案や意見も複数あった。

障害のある子どもについて保育園を通して新たに知ったことについて自由記述で尋ねたところ、保育園の子供と特別支援学校の子供がすぐに仲良くなれることがわかったという記述が多く、自身の子どもから障害についての話を聞いて障害理解を深めたというコメントや、より障害を理解したいという希望の記述もあった。

今後の交流については、回答者全員の100%が交流の継続を希望し、「どちらでもよい」または、継続に否定的な回答者はいなかった。今後の期待について自由記述を求めたところ、障害の有無にかかわらずいろいろな子供がいる環境は今後も大切である、いろいろな個性を知り相手を思いやりお互いに支え会うことを子供たちに学んでほしい、保育園と特別支援学校の子供だけの関わりをもっと増やしてほしいという記述が多く、特別支援学校の取組や幼稚部の幼児や保護者、教員の交流についての感じ方や意見が知りたいといったコメントや保護者同士の交流を望む声も寄せられた。

今回の調査から、回答者全員が交流について肯定的に評価している実態が明らかになった。そして、障害の有無に関わらず個性として一緒に過ごすことが当たり前、自然であるという保護者の意識や、交流保育が幼稚部の子どもにとってだけでなく園児やその保護者にとってもプラスの面が大きいことが示され、今後の活動の展開についても示唆が得られた。

【資料４】

2019.1.25（Fri）

発達の遅れや障害のある子どもたちの受入れによるインクルーシブ保育の実践

橋本創一（東京学芸大学）

「あそび」を通して育てる

遊びの定義はさまざまにある‥
あらためて考えると難しいです
＝3つに集約される

①自発性（自分からすること）
②自己完結性（満足するまですること）
③自己報酬性（「楽しいという自分へのご褒美を与えること）

「あそび」を育てる？
「あそび」を通して何を育てる？

「あそび」を通して育てる

様々な感情や時空間を子どもが循環的に体験

興味関心 → 自発性 → 面白い楽しい → もっともっとやりたい → 興味関心

種々の能力を獲得
↑
発達に必要な経験を積み重ねていく
↑
興味関心をもって身近な環境と関わり

「あそび」の質を高める

失敗例

①遊びは子どもの自発性にまかせるべきとして放任している園
②保育者間で遊びの質のとらえ方が共通理解されていない園
③遊びを幼児教育や保育の中心としてとらえておらず休み時間とする園

「あそび」と「学び」の重要な関係性の理解不足?!

「あそび」の質を高める

古くからの遊びの研究の分類例

ビューラー
①感覚遊び（機能遊び）
②運動遊び
③模倣遊び（想像遊び、ごっこ遊び）
④構成遊び（想像遊び）
⑤受容遊び（動植物・絵本）

カイヨワ
①競技遊び
②偶然遊び（サイコロ遊び）
③模倣遊び
④眩暈遊び（渦巻き）

ピアジェ
①機能行使の遊び
②シンボル遊び（ごっこ遊び・想像遊び・模倣遊び）
③ルール遊び

加藤
①ごっこ遊び　②ものづくり
③遊具遊び　④運動遊び
⑤教養遊び　⑥ルール遊び
⑦その他

仙田
<<遊具を介した遊びの分類>>
①身体動作遊び　②乗り物遊び
③身体感覚遊び　④模倣遊び
⑤追跡鬼遊び　⑥泥・砂遊び
⑦アジト遊び

<<遊具での遊び行動>>
①休息的遊び行動
②めまい的遊び行動
③挑戦遊び的行動
④ごっこ的遊び行動

「遊び込む」経験に関する調査報告

（ベネッセ教育総合研究所，2016）

- 自由に遊べる環境が充実（自由に遊べる時間や場所、遊具や素材がある）→“遊び込む経験”が多くなる
- 子どもの“やりたい”気持ちを尊重／受容的に関わる→“遊び込む経験”が多くなる
- “遊び込む経験”⇔友だちとの“協同的な活動経験”強く関連している

“遊び込む経験”が多い年長児ほど、学びに向かう力は高い

障害とは・・

知的障害：知的発達の遅れ，生活全般の適応の障害
ダウン症，自閉症，非定型自閉症…

発達障害：グループの名称
社会性・・ASD（自閉症スペクトラム障害）
行動・・ADHD（注意欠如多動性障害）
学習・・LD（学習障害）
運動・・発達性協調運動障害（不器用さ）

身体障害：グループの名称
運動・・脳性まひ（肢体不自由）
視覚・・弱視・盲（視覚障害）
聴覚・・難聴・ろう（聴覚障害）
言語・・構音障害・吃音（言語障害）
健康・・喘息・腎臓病・筋ジス・肥満（病弱・身体虚弱）

情緒障害：情緒の現れ方の偏り・適応の障害
精神・・選択性緘黙・心身症・チック（精神疾患）

自閉症スペクトラム障害ASDとは．．．．

自閉症スペクトラム障害 Autism Spectrum Disorder DSM-5診断基準
次のA～Dを満たす。
A. 社会的コミュニケーションおよび相互関係における持続的障害（以下3点）
1. 社会的、情緒的な相互関係の障害
2. 他者と交流に用いられる言葉を介さないコミュニケーションの障害
3. 年齢相応の関係性の構築・維持の障害
B. 限定された反復する様式の行動、興味、活動（以下2点以上）
1. 常同的・反復的な運動・発言または物の操作
2. 同一性のこだわり、日常の融通のきかない執着、儀式的な行動パターン
3. 限定的・執着した興味、集中度や焦点づけが異常に強い
4. 感覚入力の敏感性・鈍感性、感覚に関する環境への異常な関心
C. 症状が発達早期から出現。後になって明らかになるものもある。
D. 社会や職業その他の重要な機能に重大な障害を引き起こしている

DSM-5では「レット障害」の削除、「自閉性障害」「小児期崩壊性障害」「アスペルガー障害」「特定不能の広汎性発達障害」を「自閉症スペクトラム障害」に一括.

注意欠如多動性障害ADHDとは．．．．

A1：以下の不注意症状が6つ以上ある
a. 細やかな注意ができず、ケアレスミスをしやすい。
b. 注意を持続することが困難。
c. 上の空や注意散漫で、話をきちんと聞けないように見える。
d. 指示に従えず、宿題などの課題が果たせない。
e. 課題や活動を整理することができない。
f. 精神的努力の持続が必要な課題を嫌う。
g. 課題や活動に必要なものを忘れがちである。
h. 外部からの刺激で注意散漫となりやすい。
i. 日々の活動を忘れがちである。

A2：以下の多動性/衝動性の症状が6つ以上ある
a. 着席中に、手足をもじもじしたり、そわそわした動きをする。
b. 着席が期待されている場面で離席する。
c. 不適切な状況で走り回ったりよじ登ったりする。
d. 静かに遊んだり余暇を過ごすことができない。
e. 衝動に駆られて突き動かされるような感じがして、じっとしていることができない。
f. しゃべりすぎる。
g. 質問が終わる前にうっかり答え始める。
h. 順番待ちが苦手である。
i. 他の人の邪魔をしたり、割り込んだりする。
B：不注意、多動性/衝動性の症状のいくつかは12歳までに存在
C：不注意、多動性/衝動性の症状のいくつかは2つ以上の環境で存在
D：症状が社会・学業・職業機能を損ねている明らかな証拠がある

知的障害とは．．．．．

▶ 日本の厚生労働省の解説として、知的障害を以下のように示した。

「知的機能の障害が発達期（18歳まで）にあらわれ、日常生活に支障が生じているため、何らかの特別の援助を必要とする状態にあるもの」

次の（a）及び（b）のいずれにも該当するものを知的障害とする。

（a）「知的機能の障害」について
標準化された知能検査（WISC、ビネーなど）によって測定された結果、知能指数が70までのもの。

（b）「日常生活能力」について
日常生活能力（自立機能、運動機能、意思交換、探索操作、移動、生活文化、職業等）の到達水準が総合的に同年齢の日常生活能力水準として低い（援助が必要な）もの。

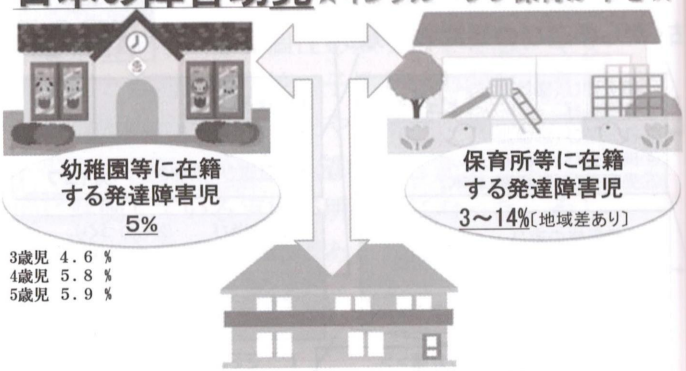
「インクルーシブ保育」とは…

子供の障害の有無や年齢、発達段階、国籍等の違いにかかわらず、どのような背景を持っていたとしても排除せずにすべてを包含して受け入れる保育.
（全ての子供が共に学び育ち、その発達に寄り添う保育）

<<メリットと指摘されること>>
□「違い」について知ることができる
□多様な人とのかかわり方を学べる
□思いやりや相手を尊重する力が身につく
□分離から無意識に作り出される偏見や差別がなくなる

<<デメリットと指摘されること>>
□「できない」ことへの劣等感が生まれかねない
□保育者が支援の必要な子供につきっきりになりかねない
□「違い」を認め合うまでには時間がかかる
□活動内容によっては物足りなさを感じる子供も出てくる

日本の障害幼児★インクルーシブ保育が中心★



知的障害62%，発達障害22%，身体障害8%（手帳保持者50%）

日本が掲げるインクルーシブ保育・教育システム構築に向けた３つの柱

① 就学先決定の制度（学校選び）

すべての子供は地域にある小学校通常学級に就学することを前提〔必要に応じて特別支援学校や特別支援学級に就学を選択する：**選択の自由**〕

② 合理的配慮

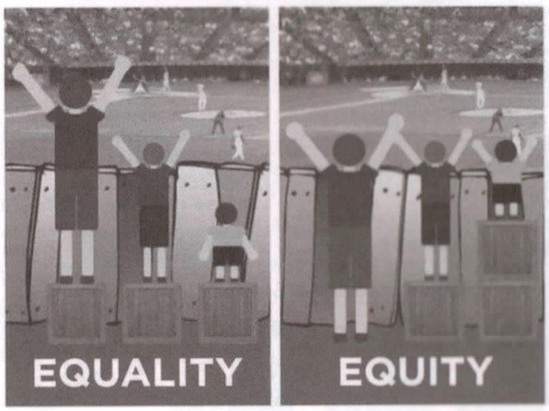
障害のある子供が十分に幼児教育や教育を受けられるための**合理的配慮**及びその**基礎となる環境整備**

③ 連続性のある多様な学びの場の構築

幼稚園・障害児施設などで、保育・幼児教育・療育を各々実践していても、スムーズな転園や密な連携などのもとに、**質の高い保育・幼児教育**を提供する

13

合理的配慮と一般的な平等のイメージ



合理的配慮とは

- 合理的配慮

Reasonable accommodation

＝「**理にかなった変更・調整**」

全ての子どもたちが
学習活動の目標が個別に達成できるように、
理にかなった変更・調整を行うことが重要

「できないこと」に
配慮して下さい!!

「合理的」とは

①「配慮を受ける本人にとって」合理的

- 配慮を必要とする本人にとって「**必要かつ適当**」であることが必要
- あくまで、障害のある方が主体的に自分の力を発揮していくために

本人の状態や周りの環境の変化に応じて、
・その人が具体的にいつ、どんな場面で困っているのか
・その困りごとを解消するための適切な配慮は何か

この2点を踏まえながら合理的配慮を検討・実施することが大切

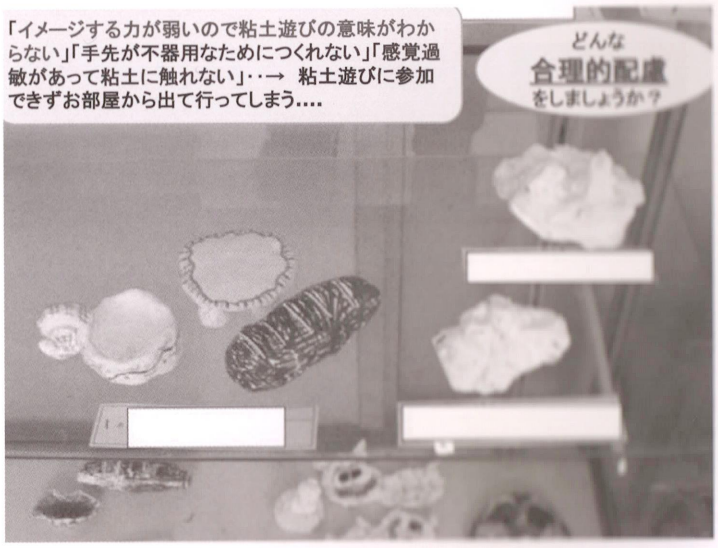
「合理的」とは

②「配慮する側」にとって合理的

- 過度な負担がある場合
- 周囲の人たちに困難さが生じる場合など

→ 合理的でない

※ただし、その理由と過度な負担にならない範囲でできる配慮を考え伝える義務あり



保育所・幼稚園での実際の障害児のための支援

＜間接的な支援内容＞

○環境設定
落ち着く空間づくり、座席位置

○少人数対応
少人数での遊び・活動

○職員間・関係機関の連携
職員全体で見る、対応の共有

○活動時の工夫
発散の時間を設定、待ち時間の短縮

○保護者対応
連絡帳、コミュニケーションをしっかりとる

○周囲児へのはたらきかけ
その子の長所を他児に伝える、周囲児が損をしないよう、周囲児を認めたり褒める

＜直接的な支援内容＞

○個別対応
1対1の対応、個別日誌、クールダウン

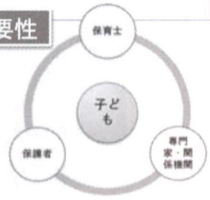
○言葉かけ・はたらきかけ
簡潔・肯定的な言葉かけ、声のトーンや早さの工夫、事前・早めの対応、長所を褒める、他児との仲立ち

○保育者の配置
そばにつく、加配をつける、目を放さない

○障害児・要配慮児への関わり方
受容、丁寧な関わり

○視覚的ツール
絵カード・写真・ホワイトボードの活用

連携の重要性



知的・発達障害のある子のための「インクルーシブ保育」実践プログラム－遊び活動から就学移行・療育支援まで－（2012）福村出版

1章　知的・発達障害のある子どもとインクルーシブ保育
1　知的・発達障害児について　　2　インクルーシブ保育

2章　遊び活動プログラム
【いろいろなあそび】
しゃぼん玉遊び1／しゃぼん玉遊び2／水遊び／色水遊び／泡あわランド／落ち葉遊び／焼いも／たこあげ／電車ごっこ／絵本／歌遊び／レインスティック／竹楽器／和太鼓遊び／缶マラカス／ほか

3章　就学移行プログラム
【なかよくあそぼう】
いすとりゲーム／しっぽとりゲーム／ボーリングゲーム／くろひげゲーム／ボールはこびゲーム／かいものゲーム／おかしとりゲーム／お正月遊び／ジェスチャーゲーム
【がっこうへいこう】
ぼく・わたしのつくえ／おはなしタイム／ずこう／そうじ／こうないたんけん

4章　事例別にみた障害児の姿と対応・相談のポイント
事例：交流しているときの姿。本当はどんなことを思っているのかな？
相談支援：困ってませんか？　気になる子どものための観察ポイント

5章　療育プログラム
【運　動】すべり台／ポール／カタカタで歩こう／階段歩き／横歩き・後ろ歩き／つま先タッチ／片足バランス（おうちはどこだ？）／ケンケンパー／ジャンプ／ジャングルジムくぐり
【認　知】追視する／見つける（物のかくれんぼ）／入れる・出す／積み木つみ／お絵かき／型はめ／ひも通し（だんご3兄弟）／マッチング（同じもの合わせ）／折り紙／大小・左右概念／ほか
【言語・コミュニケーション】～はどれ？（理解）／これなあに？（表出）／いないいないばー／鏡遊び／まねっこ（音声模倣）／お返事しよう／表情理解／順番守れるかな？／ジェスチャーゲーム／ことばの音遊び（音韻）／ほか
【生　活】電気のスイッチ／ドアの開閉／髪をとかす／貯金箱にコインを入れる／着替え／スプーン・フォーク／箸をつかう／洋服をたたむ／結び目をほどく・結ぶ／うがい／おぼんで運ぶ／体を拭く

知的・発達障害のあ[illegible]ブ保育」実践[illegible]・療育支援[illegible]

障害児に合った遊びの提供

1章　知的・発達
1　知的・発[illegible]　2　インクルーシブ保育

2章　遊び活動プログラム
【いろいろなあそび】
しゃぼん玉遊び1／しゃぼん玉遊び2／水遊び／色水遊び／泡あわランド／落ち葉遊び／焼いも／たこあげ／電車ごっこ／絵本／歌遊び／レインスティック／竹楽器／和太鼓遊び／缶マラカス／ほか

3章　就学移行プログラム
【なかよくあそぼう】
[illegible]ゲーム／ボールはこび[illegible]
【が[illegible]

就学に向けた取り組み
＜幼保小連携＞

4章
事例：交流してい[illegible]は？
相談支援：困ってませんか？　気になる子どものための観察ポイント

5章　療育プログラム
【運　動】すべり台／ポール／カタカ[illegible]足バランス（おうちはどこだ？）／ケンケンパー／ジャンプ[illegible]
【認　知】追視する／見つける（[illegible]も通し（だんご3兄弟）／マッチング（同じもの合わ[illegible]
【言語・コミュニケーション】[illegible]遊び／まねっこ（音声模倣）／お返事しよう／表情理解／順番守れるかな？／ジェスチャーゲーム／ことばの音遊び（音韻）／ほか
【生　活】電気のスイッチ／ドアの開閉／髪をとかす／貯金箱にコインを入れる／着替え／スプーン・フォーク／箸をつかう／洋服をたたむ／結び目をほどく・結ぶ／うがい／おぼんで運ぶ／体を拭く

保育所・幼稚園で取り組む療育